

介護サービス 会社の総務

ケアワーク弥生 総務部

北野 普子さん

大学の医学部保健衛生学科で臨床検査技師になる勉強をしていたが、その学生時代にケアワーク弥生の仕事を体験し「社員にならばいい」と動機を挙げて、飛び込むことになった。現在、総務部は6人体制。



社員がはつらつと働ける会社をめざす

ケアワーク弥生は、介護を必要とする「利用者さん」と呼ばれる高齢者などに、ケアプランの作成や、訪問介護、施設でのケアなど、介護サービスを行う会社だ。会社に登録している非常勤のヘルパーも含めると、社員数は約200人。北野さんのいる総務部は、その中で社員一人ひとりが「はつらつと働けるように支援する」役目を果たしている。

たとえば、ヘルパーたちが介護の仕事に集中できるよう、保険請求や利用者さんへの請求、給与計算などの事務を引き受ける。介護保険法などの法改正があれば情報を集め、経営陣の指針づくりに役立ててもらい、社員が法令を守って働けるように社内ルールの整備や教育も担当する。さらには訪問介護用の自転車のメンテナンスや、電灯の交換まで。

「入社した当時、社内ではIT（情報技術）化を進めようという話があり、私は1年目からそのプロジェクトのリーダーも務めることになりました。わからないことが多く、先輩たちに怒られながらも（笑）、プログラマーの方といっしょに、紙でしていた社員のシフト勤務管理をパソコン

で行えるようにしたり、給与計算システムをつくったりしました」

肌で感じた介護のきらきらした部分を広めたい

このほか北野さんは、利用者さんからの電話での問い合わせに受け答えする仕事も経験。また、施設が忙しいときは、利用者さんの話し相手になるなど、資格のいない部分で現場の応援に入ることもある。北野さんはそんな「利用者さんとのかわり」を貴重と感じているそうで、今では認知症ケアや緩和ケアの研修にも出向くようになった。

「ふれあったこうした利用者さんたちを支えるために、現場のヘルパーがお手伝いをし、そのヘルパーが力を発揮できるように支えるのが私たちなんだ、という“つながり”を感じられるようになったんです。ヘルパーから利用者さんまで、みんながハッピーになれるようにすることが私たち仕事の目的。そこを忘れないようにしたいです」

最近では、ホームページやイベントでの広報活動にも力を入れている。介護の仕事や現場は、ともしればきつそうと見られがちだ。でも北野さんは、やりがいをもって働くスタッフの姿や、きらきらした利用者さんの表情を、その目で見てきた。介護の現場のきらきらした部分も、世の中の人にもっと知ってほしい。その思いが強まっているからだ。



ケアワーク弥生



総務部の仲間といっしょに